

陸上競技研究紀要 第4巻

編集後記

予定よりも遅れましたが、日本陸連研究紀要第4巻をお届けします。

例年通り、第4巻も研究論文および科学委員会の報告書から構成されています。今年については研究論文が4編と少なく、投稿数減少が気になるところです。最近では、陸上競技の研究の中心的役割を担っている大学教員も学内外の諸事雑務に追われ、本来の教育や研究に投入できる時間やエネルギーが減少していることが指摘されていますが、このことも投稿数の減少の1つの要因かもしれません。しかし、研究成果およびその成果を現場に活用すること、それを可能にする指導者が育たなくては我が国の陸上競技界の発展も望めないことを考えると、来年度には教員だけでなく、もっと若い人からの多くの研究論文の投稿を願う次第です。

一方、後半の日本陸上競技連盟科学委員会の活動の一部をまとめた報告書については、2007年8月25日～9月2日に大阪で行なわれた第11回世界陸上競技選手権大会の報告論文が掲載されています。これらは31名の班員（科学委員会委員17名、協力班員14名）、さらに競技場外協力班員7名を加えた38名が早朝から深夜までフル稼働で活動した成果の一部ですが、世界一流選手の動作に関する情報が満載されている貴重なものです。ぜひ一読いただきたいと思います。さらに、インターハイ入賞者を対象にした実態調査、北海道マラソンにおける生理学的調査を行なったものや、国立スポーツ科学センターをはじめとする国内外でのジュニア、短距離、中距離などの合宿への帯同によるサポート活動に関する報告も掲載されています。

8月に開催される北京オリンピックにおける我が選手団の活躍を祈念する。

平成20年7月31日
文責 阿江通良（編集委員長）

陸上競技研究紀要第4巻 編集委員
阿江通良（編集委員長）、岡野 進（副委員長）、伊藤宏、松尾彰文、杉田正明
（日本陸上競技連盟・事務局）風間 明、森泰夫、三宅聡、佐藤峻一

「陸上競技研究紀要」第4巻

2008年7月31日発行

発行人 澤木 啓祐

発行所 財団法人日本陸上競技連盟

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

TEL : 03-3481-2300
